

TOYOBO NOW

第167期 報告書 | 2024年4月1日～2025年3月31日 |



「PRIDE指標2024」で最高評価「ゴールド」獲得

当社は、昨年11月、性的マイノリティ（LGBTQ+）への対応状況を評価する「PRIDE指標2024」※において、最高評価「ゴールド」を初めて獲得しました。これまで当社は、社内セミナーなどの啓発活動やジェンダーフリー設備の設置などを実施してきましたが、引続き多様な人材の相互理解やすべての従業員が安心して働ける土台の構築による、働きやすい職場づくりと組織の活性化を図っていきます。



※「PRIDE指標」は、一般社団法人work with Prideが2016年に日本で初めて策定した企業・団体等のLGBTQ+に関する取組みを評価する指標です。



当社のダイバーシティに関する取組み

https://www.toyobo.co.jp/sustainability/society/diversity_inclusion/



CONTENTS

- 株主のみなさまへ
- セグメント別業績の概要
- TOPICS
 - ― 「PRIDE指標2024」で最高評価「ゴールド」獲得
 - ― NEDO「バイオもののづくり革命推進事業」実施先に2026年まで継続採択
～ 天然由来の界面活性剤の展着剤としての展開を見込む ～
 - ― 国内初、リサイクル原料使用比率100%の工業用フィルム“レナシャイン”を新開発
- 業績・財務ハイライト
- 会社の概要・株式の状況
- 株主メモ
- 配当金のお知らせ

東洋紡株式会社

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当連結会計年度（以下、「当年度」といいます。）における当社グループを取り巻く事業環境は、米国では堅調な経済活動が続いたものの、足もとは需要減退の兆しが見られ、先行き不透明感が増してきました。中国では輸出は拡大しましたが、不動産不況や消費低迷の長期化に対する政策の効果は限定的で、景気は足踏み状態が続いています。国内においては、所得環境の改善により個人消費が持ち直したことに加え、インバウンド需要の増加や設備投資の拡大により、景気は緩やかに回復しました。

こうした事業環境のもと、液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”、中東向け特化生地は堅調に推移しました。加えて、包装用フィルム事業、不織布マテリアル事業などの要改善事業において、製品価格の改定や生産体制の見直しなどの対策を進めたことにより、収益性が改善しました。

以上の結果、当年度の売上高は4,220億32百万円と前年度比1.9%の増収、営業利益は166億53百万円と前年度比85.1%の増益、経常利益は105億91百万円と前年度比52.1%の増益、親会社株主に帰属する当期純利益は20億3百万円と前年度比18.4%の減益となりました。

配当について

当社は、安定的な配当の継続を基本としつつ、持続性のある利益水準、将来投資のための内部留保、財務体質の改善などを総合的に勘案のうえ、総還元性向30%を目安として、自己株式の取得を含めた株主還元を行ってまいります。

期末配当は、前期と同額の1株あたり40円とさせていただきます。

中長期的な経営戦略および対処すべき課題

(1)「2025中期経営計画」(2022～2025年度)への取り組み

当社グループは、企業理念『順理則裕』のもと、長期ビジョン「サステナブル・ビジョン2030」を策定しています。事業環境の変化や社会トレンドを想定したうえで、「人」と「地球」に関する社会課題を設定し、その課題に対するサステナビリティ指標（非財務指標）とアクションプランを定めています。

また、「サステナブル・ビジョン2030」に掲げる目標を達成するための通過点として、「2025中期経営計画」(2022～2025年度)（以下、「2025中計」といいます。）を策定しています。当該期間を「つくりかえる・仕込む4年」と位置づけ、「安全・防災、品質の徹底」「事業ポートフォリオの組替え」「未来への仕込み」「土台の再構築」の4つの施策を中心に企業価値向上への取り組みを進めています。

(2) 2025年度経営方針の策定、実行

当社グループでは、前述の取り組みを進めていますが、原燃料価格や物流費・人件費などの上昇、需要の変調など、2025中計策定当初と比べ事業環境が大きく変化した影響もあり、「稼ぐ力」が低下しました。

これを踏まえ、2025年度経営方針には、引き続き「未来をつくるために稼ぐ力を取り戻す」を掲げ、以下の6つのアクションプランを実行します。

①安全・防災、品質、コンプライアンスの徹底

事業継続の大前提として掲げる安全・防災については、「安全防災ロードマップ」に沿って、安全文化の醸成と安全基盤の整備を活動の両輪とし、すべての階層への教育の充実や安全防災投資によるリスク低減に取り組み、「ゼロ災」をめざします。

品質については、「品質保証体制再構築ロードマップ」に沿って、PL/QAアセスメントの徹底や品質データのオンライン化などを推進することで、安全・安心な製品・サービスをお届けします。

コンプライアンスについては、引き続き、研修の充実や事例の共有、内部通報窓口の利用促進施策などを進め、問題の早期発見と是正に努めます。

②価値に見合ったプライシングの徹底

プライシングは稼ぐ力の鍵であることを再認識し、提供する付加価値に見合った製品価格の設定を徹底します。2021年度からの原燃料価格の高騰分については概ね価格転嫁が完了しましたが、引き続き、物流費や人件費などの上昇分に対する製品価格の改定を進めます。

③要改善事業対策

要改善事業として位置づける5事業については、それぞれ次の取り組みを進め、早期の黒字化・正常化をめざします。

衣料繊維事業は、すでに黒字化していますが、さらに資産効率の改善を進めていきます。

医薬品製造受託事業はGMP (Good Manufacturing Practice) 体制の維持に加え、更新した製造設備の稼働率向上、新規案件の獲得を進めます。エアバッグ用基布事業はタイの原糸工場の稼働率向上や生産体制の見直しを進めます。

包装用フィルム事業は、生産体制の見直し、製品価格改定に加え、全社フォロー体制による新機台の早期収益化、環境対応製品へのシフトを進めます。不織布マテリアル事業は、国内生産体制の見直しに加え、開発品の強化、外部委託生産の拡大を進めていきます。

これらの取り組みを通じて、2025年度に2024年度比で約70億円の収益改善をめざします。

④投資の確実な回収と新の創出

重点拡大事業であるフィルム、ライフサイエンスにおいて、セラミックコンデンサ用離型フィルム、液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”、生化学診断薬用原料酵素、PCR検査試薬・遺伝子診断薬用原料、人工腎臓用中空糸膜などに対して、設備投資を積極的に進めています。一部の設備で発生している計画対比での遅れに対して、生産技術部門による横串機能の強化を行うなど全社でのフォローアップをすることで、成長投資案件を確実に立上げ、2028年度に2024年度比で約100億円の利益創出をめざします。

⑤投資・経費の絞込み、コストダウン

投資の絞込みについては、2025中計策定時、4年累計2,400億円の設備投資を計画していましたが、2024年5月に投資案件を見直すことで、1,800億円に圧縮する計画に変更しました。成長投資については、工業用フィルム事業、バイオ事業、メディカル事業への投資は着実に実行する一方、要改善事業に位置付けを変更した包装用フィルムの成長投資を見直しました。つくりかえる投資については、優先順位を精査のうえ見直しを行っています。安全・防災・環境投資については、安全・防災、品質投資は着実に実行し、環境投資は一部26年度以降へ見送りをしています。引き続き、資本効率を重視した経営を進めていきます。

経費の絞込み、コストダウンについては、全社プロジェクトによる経費の見直し、生産性の改革やコスト構造の変革を進めます。具体的には、スタッフ部門を中心とした業務委託費の削減などによる間接材費のコストダウン、共通部門費の見直し、事業再配置による事業所・工場のコスト競争力強化、人材の最適配置、データ資産活用的高度化などによる業務効率・生産性向上に取り組めます。これらにより、2027年度に2023年度比で約50億円の利益創出をめざします。

⑥使用資本の圧縮（資産効率の改善）

持続的な成長を見据えて、使用資本の適正化のために、運転資金の拡大抑制、投資の絞込み、事業ポートフォリオの組替えに注力します。並行して、ベストオーナーの選択肢も排除せずに、使用資本圧縮の検討を進めていきます。

(3) 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

当社グループでは、現状、PBRが1倍を下回る状態にあることを重く受け止めており、資本コストを意識した経営を推進しています。

2025中計では、重要財務指標にROE、ROICを採用しており、「価値に見合ったプライシング」「要改善事業対策」「投資の確実な回収」「投資・経費の絞込み、コストダウン」「使用資本の圧縮」を推進することにより、グループ全体の収益性、資産効率の改善を進めています。

並行して、PERを高めるために、「新の創出」により、成長の具体策や道筋を示し成長期待を高めるとともに、「安全・防災、品質、

コンプライアンスの徹底」によりリスクの低減を進めています。これらの取組みを通じて、ROE8%以上、PBR1.0倍以上をめざします。

当社グループは、このような課題に取り組み、事業を通じて社会課題の解決に貢献し、従業員が誇りとやりがいをもって働き続けられる会社、持続的に成長できるサステナブルな会社をめざしていきます。

次期の見通し

2025年度の事業環境につきましては、米国の通商政策の転換によって世界経済の不確実性が高まることが予想されます。

当社グループにおいては、堅調な需要が続く“コスモシャインSRF”の販売拡大、回復基調にある包装用フィルムの収益性改善を進めます。加えて、今後需要拡大が見込まれる、セラミックコンデンサ用離型フィルム、生化学診断薬用原料酵素、人工腎臓用中空糸膜の生産能力を増強し、販売拡大を図ります。

2025年度の連結業績予想につきましては、売上高は、当年度比4.3%増の4,400億円、営業利益は、同26.1%増の210億円、経常利益は、同46.4%増の155億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、同124.6%増の45億円としています。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 兼 社長執行役員

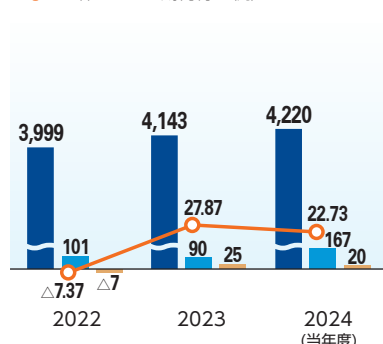
竹内 郁夫



167期 業績・財務ハイライト

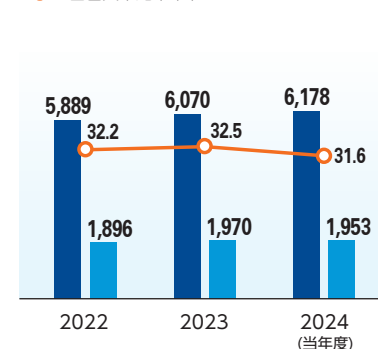
売上高・営業利益・親会社株主に帰属する当期純利益・1株当たり当期純利益

■ 売上高 (億円) ■ 営業利益 (億円)
■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)
○ 1株当たり当期純利益 (円)



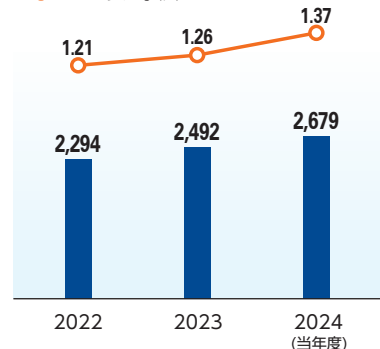
総資産・自己資本・自己資本比率

■ 総資産 (億円) ■ 自己資本 (億円)
○ 自己資本比率 (%)



有利子負債・D/Eレシオ

■ 有利子負債 (億円)
○ D/Eレシオ (倍)



セグメント別業績の概要



フィルム

売上高

1,668億円

6.6%増
(前年度比)

営業利益

69億円

● 包装用フィルム事業

新製品の開発費用などコスト上昇の影響を受けましたが、荷動きが緩やかに回復したことに加え、原燃料価格や物流費の上昇に対する製品価格の改定を進めたことにより、収益性が改善しました。

● 工業用フィルム事業

セラミックコンデンサ用離型フィルムはAIサーバー向けなどの販売が拡大した一方で、新機台の立上げ費用が増加しました。液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”は強い需要に支えられ、堅調に推移しました。



ライフサイエンス

売上高

343億円

0.6%減
(前年度比)

営業利益

20億円

● バイオ事業

診断薬用原料酵素は国内外ともに堅調な需要に支えられ、販売が増加しましたが、生産能力増強に伴う費用の増加に加え、一時的な生産性低下の影響も受けました。

● メディカル事業

人工腎臓用中空糸膜の販売が堅調に推移しましたが、新工場の立上げやインフラ関連投資に関する費用が増加しました。

● 医薬品製造受託事業

FDA※からのWarning Letterが解除されたことに加え、製品価格の改定が進みました。

※ Food and Drug Administration (アメリカ食品医薬品局)



環境・機能材

売上高

1,108億円

3.9%減
(前年度比)

営業利益

80億円

● 樹脂・ケミカル事業

エンジニアリングプラスチックは、製品価格の改定が進んだことに加え、北中米向け自動車用途の販売が拡大しました。水現像型感光性印刷版用途の光機能材料は、中国や東南アジアを中心に販売が増加しました。

● 環境・ファイバー事業

環境ソリューションは、リチウムを濃縮回収するためのBC (Brine Concentration) 膜装置の販売が寄与しましたが、EV市場減速の影響により、リチウムイオン電池セパレータ製造工程で使用されるVOC回収装置の出荷が減少しました。高機能ファイバーは、海外向け販売が堅調に推移しました。不織布マテリアルは、国内生産体制の見直しが進み、収益性が改善しました。



機能繊維・商事

売上高

981億円

2.5%増
(前年度比)

営業利益

5億円

● 衣料繊維事業

中東向け特化生地は、強い需要に牽引され販売が増加したことに加え、為替影響により輸出採算が好転しました。さらに、国内生産拠点の集約などの構造改革が進展しました。

● エアバッグ用基布事業

製品価格の改定が進みました。



不動産事業 その他事業

売上高

120億円

1.6%減
(前年度比)

営業利益

26億円

不動産、エンジニアリング、情報処理サービス、物流サービス等のインフラ事業は、それぞれおおむね計画どおりに推移しました。

(営業利益 消去または全社△33億円)

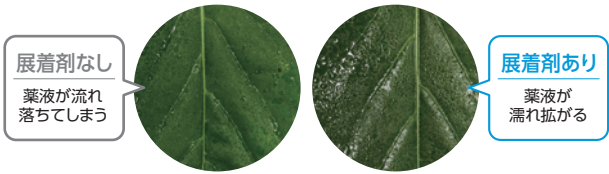
連結貸借対照表の要旨 (単位:百万円)

科 目	当年度 (2025年3月31日現在)	前年度 (2024年3月31日現在)	科 目	当年度 (2025年3月31日現在)	前年度 (2024年3月31日現在)
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	267,495	273,733	流 動 負 債	160,320	184,148
固 定 資 産	350,304	333,257	固 定 負 債	225,435	192,755
有 形 固 定 資 産	296,518	281,475	負 債 合 計	385,755	376,903
無 形 固 定 資 産	5,032	4,670	純 資 産 の 部		
投 資 そ の 他 の 資 産	48,754	47,112	株 主 資 本	152,433	154,227
			その他の包括利益累計額	42,879	42,806
			非 支 配 株 主 持 分	36,732	33,054
			純 資 産 合 計	232,044	230,087
資 産 合 計	617,799	606,990	負 債 ・ 純 資 産 合 計	617,799	606,990

NEDO「バイオものづくり革命推進事業」実施先に2026年まで継続採択

～ 天然由来の界面活性剤の展着剤としての展開を見込む ～

当社は、NEDO※1「バイオものづくり革命推進事業」の支援のもと、産総研※2と共同で天然由来の界面活性剤マンノシルエリスリトールリピッド（以下、「MEL」）の研究・開発を進めています。※3
界面活性剤の多くは石化由来ですが、MELは、微生物（酵母）の働きにより植物油脂などを発酵させて生産する天然由来の界面活性剤です。当社は、MELの実用化に向け、大幅な生産性向上によるコストダウンをめざしており、2024年度には、新たな原料の検証、MEL生産用微生物の開発、製造プロセスの改良等に取り組ましました。将来的には農薬の付着性を高める展着剤や飼料配合剤としての採用を目指していきます。



農作物の表面は水を弾く性質があるため、農薬の効果を高めるために、展着剤が使用されることがあります。MELは、既存の石化由来の展着剤に比べて、環境負荷を低減できることに加え、少量であっても高い効果が得られるなど、さまざまなメリットがあります。今後は、試験プラントの建設や農地を使用した実証実験など、規模を拡大した検証も推進していきます。



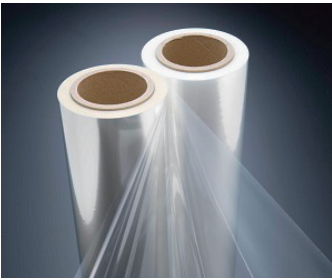
当社研究所における開発の様子

※1 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（本部：神奈川県川崎市）
※2 国立研究開発法人産業技術総合研究所（本部：東京都千代田区、茨城県つくば市）
※3 NEDO「バイオものづくり革命推進事業」実施予定先への採択について
https://www.toyobo.co.jp/news/2024/release_1578.html

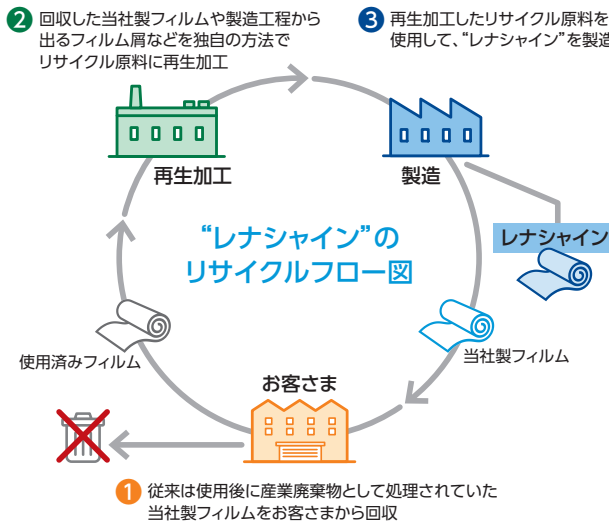


国内初※1、リサイクル原料使用比率100%の工業用フィルム“レナシャイン”を新開発

当社は、リサイクル原料100%使用の工業用フィルム“レナシャイン”を開発しました。お客さまから回収した当社製使用済みフィルムや、製造工程で出るフィルムくずなどをリサイクル原料として再利用します。“レナシャイン”は当社製フィルム並み※2の性能を実現、光学用フィルムや包装材料、電子機器部材など、幅広い用途への展開を見込んでいます。今後、実証実験などを通じて、使用済みフィルムを再資源化するリサイクルフローの早期運用開始を目指していきます。



リサイクル原料を100%使用した“レナシャイン”



※1 2024年10月28日時点、当社調べ
※2 当社の工業用フィルム“コスモシャイン”と同等の透明性、平滑性を有しております。

連結損益計算書の要旨（単位：百万円）

科 目	当年度 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)	前年度 (自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日)
売上高	422,032	414,265
売上原価	324,977	326,267
売上総利益	97,055	87,998
販売費及び一般管理費	80,402	79,003
営業利益	16,653	8,995
営業外収益	3,153	3,702
営業外費用	9,216	5,735
経常利益	10,591	6,962
特別利益	2,350	3,312
特別損失	5,772	4,687
税金等調整前当期純利益	7,168	5,587
法人税等	1,969	2,007
当期純利益	5,199	3,580
非支配株主に帰属する当期純利益	3,196	1,125
親会社株主に帰属する当期純利益	2,003	2,455

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨（単位：百万円）

科 目	当年度 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)	前年度 (自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	30,118	21,595
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 46,386	△ 58,784
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,490	8,260
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 105	2,034
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 5,883	△ 26,894
現金及び現金同等物の期首残高	33,310	60,204
現金及び現金同等物の期末残高	27,427	33,310

（記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。）



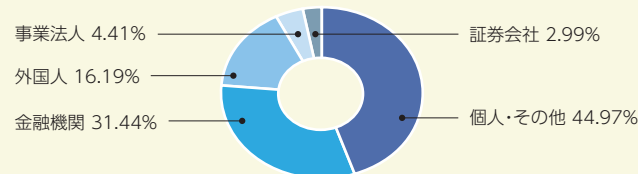
会社の概要・株式の状況

(2025年3月31日現在)

社名	東洋紡株式会社
英文社名	TOYOBO CO., LTD.
証券コード	3101
創立	1882年(明治15年)5月3日
設立	1914年(大正3年)6月26日
資本金	51,730,003,166円
本社	大阪市北区梅田一丁目13番1号 (代表 06-6348-3111)
東京支社	東京都中央区京橋一丁目17番10号
名古屋支社	名古屋市西区市場木町390番地
従業員数	連結 9,976名 単体 3,030名

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	89,048,792株 (自己株式876,140株含む)
株主数	69,183名

株式分布の状況(所有者別)



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで (期末の配当金受領株主確定日 3月31日)
定時株主総会	6月に開催します。
基準日	定時株主総会の基準日は3月31日です。 その他必要のあるときは、あらかじめ公告して定めます。
単元株式数	100株
公告掲載ホームページアドレス	https://www.toyobo.co.jp 電子公告による公告ができない場合、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
受付時間9:00 ~17:00 (土日休日を除く)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および
全国各支店で行っています。

各種手続のお申出先

- 住所変更、配当金の受取方法のご指定、
単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

区分	お申出先
証券会社でお取引をされている株主さま	株主さまの口座のある証券会社
特別口座(証券会社に口座のない)の株主さま	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (上記、電話照会先をご参照ください。)

- 未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人にお申出ください。

三井住友信託銀行株式会社ウェブサイト
株式に関するお手続きはこちら

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency>



配当金のお知らせ

配当金

第167期の期末配当金は、「配当金領収証」により、払渡期間(2025年6月26日から2025年7月31日まで)内にお受け取りください。

配当金の口座振込をご指定の方は、「配当金計算書」および「お振込先について」を、株式数比例配分方式をご指定の方は、「配当金計算書」および「配当金のお受け取り方法について」をご確認ください。

なお、当社定款の定めにより、2028年6月26日までにお受け取りがない場合、当社はその支払いの義務を免れることになります。期間経過後は、お支払いいたしかねますので、お早めにお受け取りください。

「配当金領収証」をご利用の株主様は、①または②の方法への変更をご検討ください。

① 証券口座でのお受取り

各証券会社の証券口座で
受け取る方法

② 銀行口座でのお受取り

ご指定の金融機関口座で
受け取る方法
(個別銘柄ごとのご指定も可能です)

配当金の受取方法を、上記①または②に変更いただくことで、
配当金の確実なお受け取りが可能になります。

- 貰い忘れないか心配...
- 窓口に行く時間がない...



口座振込による
配当金受取は
簡単な手続き※で
貰い忘れることもなく
窓口に行く
手間も省けます



※変更のお手続きに関しましては、お取引のある証券会社等に直接お問い合わせください。



← 株主・投資家情報はこちら
<https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir.html>



← 統合報告書はこちら
<https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/integrated.html>

UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

本報告書掲載のTOPICSにつきましては、2025年3月31日時点の情報です。